

# 中海工コ活動レポート

# 藻刈り

ってなに？



オゴノリ採り (2011年(平成23年)9月、海藻農法普及協議会)



昭和初期の藻刈り(提供:境港市渡公民館)

かつて中海周辺で営まれていた  
海藻(海草)を利用した人々の暮らし

いま再び、海藻を刈り取り、  
肥料などに利用する取組が始まっています

今から60年くらい前までの中海では、海藻・海草類を採集する「藻刈り(モバ採り)」が盛んに行われていました。

中海で採られた海藻・海草類は、中海周辺の農地で、綿花、麦、里芋、ジャガイモ、サツマイモ、野菜、桑などを作るための肥料として使われました。右の写真は綿花栽培の様子です。



綿つみ(1954年(昭和29年))  
「新修米子市史」より



綿干し(1954年(昭和29年))  
「新修米子市史」より

## ■ 藻刈りってなに？

- 中海における藻刈りと利活用
- 民間団体の取組がスタート！
- 中海 海藻マンガ

## ■ 中海・宍道湖情報館オープン

<http://www.nakaumi-shinjiko.jp/>



# 中海における藻刈りと利活用

ワイズユース  
～ 環境改善と湖からの恵み ～

## 海藻は重要な資源だった

古くから、中海沿岸地域ではアマモなどの海草、オゴノリやウミトラノオなどの海藻を採集し、肥料や食材などに利用する暮らしが営まれていました。特に、化学肥料が普及する1950年代半ば頃までは、この地域の農業を支える肥料として欠かせない資源であり、大量に採集されていました。

## 近年、大量繁茂

中海の海藻は、1960年代末頃には激減しましたが、近年、オゴノリやウミトラノオ、ホソジズモ、シオグサ等の海藻が再び大量に繁茂するようになりました。

海藻は生長過程で湖内の窒素やリンを吸収して水質浄化に役立ちますが、湖岸に打ち上げられて腐敗すると悪臭の原因になったり、湖内で枯死するとヘドロ化して水質悪化にもつながります。また、湖底に堆積することでアサリなど有用な魚介類の成育に悪影響を与えているのではないかと指摘もあります。

## 藻刈りの復活

このようなことから、先人の知恵に習い、NPO・企業・漁業者・農業者等が協力して、海藻を採取し、肥料や食材等に有効利用しようとする取組が始まりました。海藻の産業等への有効利用と水質改善を両立した資源循環の仕組みづくりとして注目されています。

## 近年増えている海藻



オゴノリ



湖岸に打ち寄せたオゴノリ

刺身のつまとして食用にされたり、寒天の原料になった。肥料としての効果も高く、利用されていた。



ウミトラノオ

肥料に利用するため、たくさん採集されていた。

これらのほか、シオグサ、ホソジズモなども増加しているようです。

## その一方、こちらの海草は……

アマモやコアマモは、かつて中海で広く分布し、肥料としてよく利用されましたが、浅瀬の減少等により激減し、今でも分布域はわずかです。

水質浄化や魚類・貝類の産卵・生息場所にもなるため、NPO法人による保全・再生活動が行われています。

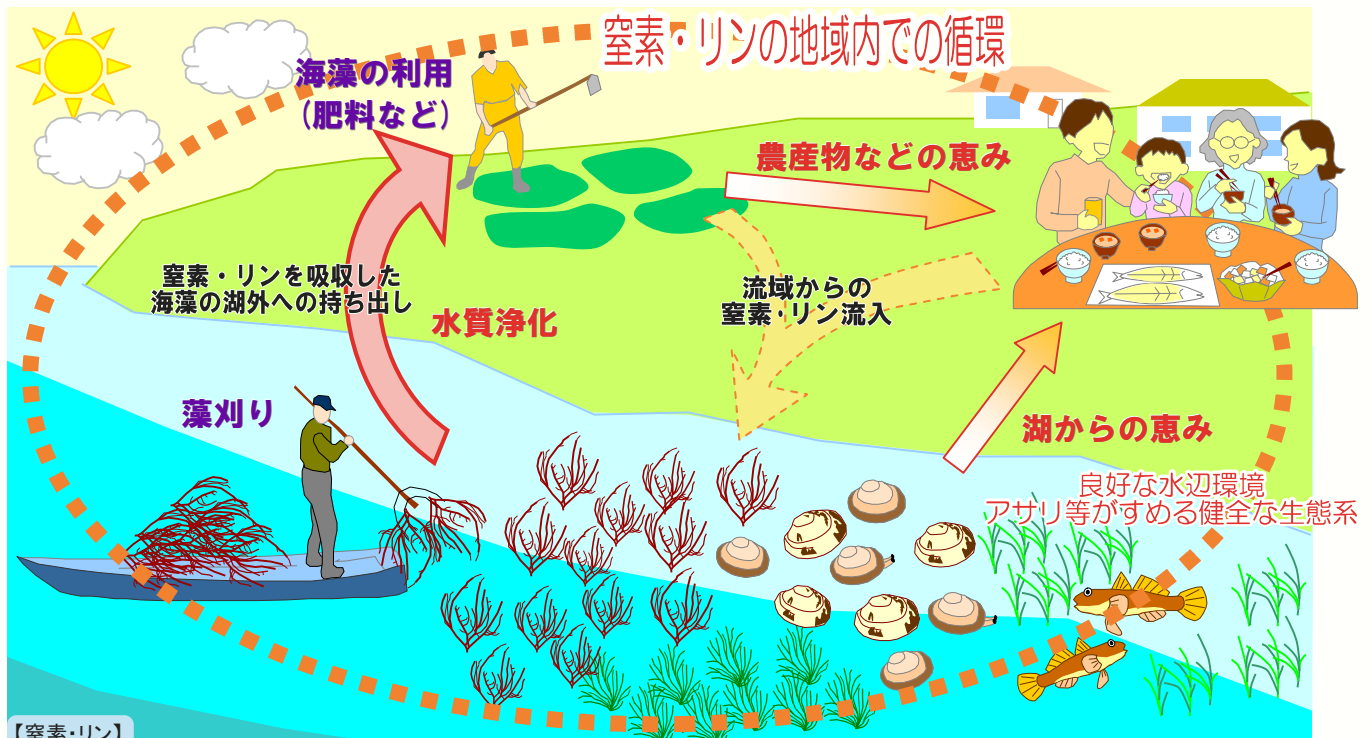


アマモ

さとうみ

## 里海の再生を目指して - 藻刈りによる 中海と人々の暮らしの環 -

周辺住民の暮らしと自然の営みが密接に結びついている沿岸海域を「里海」といいます。里海は、陸地という里山と同じで、人の手によって陸域と沿岸海域が一体的・総合的に管理されることで、物質循環機能が適切に保たれ、豊かで多様な生態系と自然環境を保全することにより、私たちに多くの恵みを与えてくれます。



【窒素・リン】

生物に必要な栄養分です。例えば、プランクトンや海藻・海草類が窒素やリンを取り込み、それをエサにする魚類・貝類が増えるなど、豊かな生態系を育みます。しかし、窒素やリンが過剰に存在するとプランクトンが異常増殖して赤潮発生などの水質悪化につながる場合があります。



## 海藻農法普及協議会 「中海の海藻の肥料化と海藻農法の普及」

1950年代半ば(昭和30年頃)までの中海は自然豊かで、汽水湖特有の魚種が豊富にあり、漁業は山陰地方の重要な産業でした。海藻類も豊富で、肥料や食用加工品として採取されていました。弓浜半島の内浜地区の農家は「モンバ船」という専門船で海藻類を採り、採取量は年間5万トン以上もあったと報告されています。

近年は海藻類が再び増加し、大量繁茂することで生活環境に悪影響を生じるため廃棄処分されることもあります。

そこで私たちは、江戸時代から中海では海藻を肥料として使用していたことに着目し、平成23年に農業者・漁業者・NPO・企業等による協議会を立ち上げ、海藻類を採取し、これらを活用した「海藻農法」を現代に蘇らせました。

ています。また、海藻農法でできた農作物には認証シールを貼り、他との差別化による中海ブランドの確立を目指しています。

海藻特殊肥料に興味津々



海藻農法でできた米・野菜市

皆さんも、この肥料を使ったり、農作物を食べたりすることを通じて、中海浄化の取組に参加しませんか！



中海の海藻を肥料化

減農薬・減化学肥料で栽培した安全・安心な農作物を消費者へ提供したいと考え、農家や消費者に対して講演会や野菜市を開催し、海藻農法の良さや農作物の美味しさをPRし



海藻農法普及協議会認証シール  
(なかうーみん)

海藻農法普及協議会

〒684-0004

境港市大正町38番地

さきも

(NPO法人未来守りネットワーク内)

TEL (0859) 47-4330

<http://www.kaisounouhou.jp/>

## NPO法人 自然再生センター 「藻刈りによる中海の環境改善」

中海の再生を目指して平成18年から進めてきた多岐にわたる調査の中で、これまで考えてきた流域からの汚濁流入や浚渫窪地(しゅんせつくぼち)の影響ばかりでなく、海藻が枯れて腐敗することが中海の水環境に負荷をかけているのではないかと推測されました。

平成22年度からは本格的に藻場調査を開始し、中海の広範囲に大量の海藻が分布していることが確認され、回収対策が必要であると考えました。

折しも平成23年度には鳥取・島根両県の連携事業として「中海の海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業」が実施され、私たちも参加することとなり、本格的な海藻回収に取り組みました。7月から開始した回収作業は炎天下の作業



海藻回収

計量作業

始めましたが、1月の大雪の影響でオゴノリが枯れたこともあり、例年のように大量発生する場所が少なく、堆積場所を探しながらで苦労しましたが、12月になると秋以降の新芽が伸びて回収量が増えたことで、2月には当初の目標量(168トン)を達成しました。

また、同時に進めている肥料試験も問題点は多いながらも、田畑への投入試験を希望する農家が増加しており、この拡大を図ることで、循環システムを構築していきたいと考えています！

NPO法人 自然再生センター

〒690-0064 松江市天神町28番地

TEL (0852) 21-4882

<http://www.sizen-saisei.org/>



14艘で一斉藻刈り作業  
(平成23年8月)

のため、朝6時から9時頃までが限界で、弓浜承水路でのシオグサ回収が予定の1割程度と低調に終わったことは今後の課題です。9月からはオゴノリの回収を

